

国際経済政策 Global Economic Policy	(教員名) 有賀 敏之	
アジア・ビジネス研究分野 探究科目	講義科目	選択
	1 単位	2018 年度・前期
I 科目の主題 国際経済政策は、冷戦の終了を挟んでその内容・性格が大きく変貌したと考えられる。それまでは社会主義国が多数存在し、また冷戦終了の少し前までは国家主導の社会主義化という路線が発展途上国の経済発展のオルターナティブとして有力視されていた。しかし冷戦終了以来四半世紀以上が経過した今、この科目のフレームワークも再検証されなければならない。 本講義においては、近代と資本制の始期より説き起こし、多角的貿易体制・通貨体制を含む近年の主要なトピックに至るまで講述する。当研究分野の講義科目の中で、もっとも包括的な内容を取り扱うものである。		
II 授業の到達目標 本講義においては、今日の経済・政治現象を捉えるうえで欠かせない歴史的視点を獲得することと併せて、時空を超えて社会現象を大掴みにするセンス、大局観を培うことを眼目とする。ただしそれは、イデオロギー的な意味では決してない。		
III 授業内容・授業計画 第1部 序論 第1回 資本制の起源 第2回 「産業」と産業革命 第3回 国民国家・国民経済・国民市場 第4回 自由貿易論と保護貿易論の系譜 第2部 冷戦の終結 第5回 近代世界システムと基軸経済 第6回 「社会主義の世紀」をめぐる 第7回 グローバリゼーションと冷戦の終焉 第8回 開放的貿易体制と戦後東アジアの「奇跡」 第3部 今日の諸問題 第9回 GATT 体制と「ラウンド」 第10回 WTO 体制から TPP へ 第11回 戦後通貨体制の問題 第12回 A. マディソンの議論 第13回 覇権理論とコンドラチェフの波 第14回 ケインズ主義政策の功罪とシュンペーター再評価 第15回 まとめと討論		
IV 事前・事後の学習内容 とりたてて予習は不要であるが、授業効果を高めるには、次回の授業までの間に一度ノートを読み直し、関連して自分でも検索等を通じた調査を行い、授業内容を膨らませてみることであろう。		
V 評価方法 期末のレポート (40 点)、授業時間内に課するペーパーを含む平常点 (60 点)。 なお留学生に対しては、別の評価方法を適用する場合がある。		
VI 受講生へのコメント 特になし		
VII 教材 教科書：有賀著『グローバリゼーションの政治経済学』（同文館 初版 1999 年、第三版第二刷 2016 年）		